

# 下野市立石橋小学校

## 1 学校課題

自分の考えをもち意欲的に学習に取り組む児童の育成  
 ～「主体的・対話的で深い学び」の授業をめざして～

## 2 研究計画

- (1) 授業の充実を図り、自ら学び解決に向かう態度と能力を育む。  
 児童が学習内容や学んだことを自覚できるようにするため、単元や授業展開を見直す。(めあて・振り返り)
- (2) 言語活動の充実を図り、豊かに学び合う集団を育てる。  
 多様なものの見方や合理的な説明・質疑応答ができるような話し合いや言語活動を行う。
- (3) 分かる授業、できる授業を展開する。  
 基礎基本の定着を図り、知識や技能が整理され、問題解決に活用できるようにする。
- (4) 外部講師の活用を図り (S & U コラボ事業等)、研修会の充実を図る。

## 3 研究内容

### (1) 研究の方法

- ① 研究教科を算数とし、学校課題追求のための授業改善の視点を絞って研究に取り組む。
- ② 3つの部を設け授業形態や教材面から「学びの力」を育む。  
 (授業研究部・教材部・学習形態部)
- ③ 共有された授業改善の視点のもとで、教師一人一人が日々の授業の質を高める。各自が、自主的公開も含め、研究授業を年間1回公開する。  
 ア 研究テーマにあった授業公開ができるよう、授業の一週間前に周知し実施する。  
 イ 途中入退出する部分的な参観も認めるなど、気軽に参観し合えるようにする。  
 ウ 互いに学び合う職員関係を築くため、アドバイスカードを活用する。
- ④ 授業検討会を充実させる。  
 ア 外部講師を招く授業は、学年で事前授業検討会や前授業を行い、研究授業の質を高める。  
 イ S & U コラボ事業を活用し、外部指導者の指導を受ける。  
 ウ 検討会では、KJ法を取り入れ振り返りを重視する。まとめたものをワールドカフェ方式で検討し、自由に話し合える雰囲気作りを心がける。KJ法でまとめたものに児童の様子や板書の写真などを加え掲示する。



### (2) 研究の実践 実践内容 (1月末日までの実施内容)

日時	形態	授業者	教科	授業内容
4 / 6	校内研修	学校課題研修	学校課題について	組織作り
5 / 17	校内研修	学校課題研修	授業研修計画の確認	進め方
7 / 12	S&U 事業	外部講師による示範授業	5年 算数	「どうしてみんなラッキーなの」 宇都宮大学附属小学校 神保元康 先生 下野市教委 田澤孝一 先生
9 / 6	校内研修	学校課題研修	授業研究の方向性・視点の確認と共有化	
9 / 11	新採研修	黒須 瞳	2年 算数	「三角形と四角形」
		上野琢朗	3年 算数	「面積」
10 / 11	幼保小連携	佐藤由佳	1年 図工	「さわって、はって、たしかめて」
10 / 17	下地区人権教育研修	田口今寿美	1年 道徳	「おばあちゃんといっしょ」

10 / 19	下小教研	櫻井 光	5年	家庭	「なぜ食べるのか考えよう」
10 / 25	S&U 事業	宮本真帆	2年	算数	「かけ算」 宇都宮大学 日野圭子 先生 下野市教委 稲葉亜希恵 先生
11 / 1	英語授業力 向上研修	高久雄介	5年	外国語	「夢の時間割を作ろう」
11 / 21	市道徳教育 研修会授業	増渕敦子	6年	道徳	「百点を十回とれば」
11 / 22	校内研修	学校課題研修	効果的なめあての提示と振り返りのさせ方		
11 / 29	校内研究会	相原浩幸	3年	算数	「分数」
12 / 6	自主公開	碓井 緑	4年	算数	「垂直、平行と四角形」
12 / 8	2~3年研修	深谷亮太	6年	社会	「アジア・太平洋に広がる戦争」
12 / 11	S&U 事業	飯野泰貴	5年	算数	「分数のかけ算、わり算」 宇都宮大学 日野圭子 先生 下野市教委 白石孝子 先生
12 / 18	自主公開	斎藤 歩	4年	算数	「変わり方」
12 / 19	自主公開	室井将男	5年	算数	「割合」
1 / 17	校内研修	今年度の学校課題の振り返り 研究の反省			
1 / 19	自主公開	田端省吾	4年	算数	「カレンダーを調べよう」
1 / 31	自主公開	安野和美	特支	算数	「パーティーをしよう」

## 4 本年度の成果と課題

### (1) 研究の成果

- ① 新学習指導要領に挙げられている「主体的・対話的で深い学び」について、「めあてと振り返りの重要性」「学級内の対話のさせ方」など具体的な視点を共有することができ、学習に取り組む児童の意欲の向上や学びの深まりが見られた。
- ② 「一人一授業」の意識のもと、互いに日々の授業に課題意識をもって取り組み、多くの授業を参観し研修できた。経験年数や学年、学級に関係なく参観し合うことで、教師の協同性が高まり、互いに刺激し合うことができた。



### (2) 研究の課題

- ① より「主体的・対話的」に学ぶためには、児童の「対話力」「対話意識」をさらに高める必要があり、教師の学級経営や日々の学業指導が重要であることが分かった。今後、教師一人一人の意識の向上と実践の積み重ねの必要を感じた。
- ② 研究を進める中、小中一貫教育の課題でもある「授業の振り返り」に取り組んだが、時間の確保の難しさなど課題も見えてきた。「振り返り」の確実な実践をめざしていきたい。
- ③ 自由な授業参観体制をとったが、参観の間、担任は自習体制を整えるなど、教師や児童の慌ただしさにつながったり、関心があっても授業参観できなかったりした場合もあった。次年度は授業参観の在り方も再検討していく必要がある。
- ④ 前年度に引き続いて3つの部（授業研究部・教材部・学習形態部）を設けたが、指導案検討などを中心となって進めた授業研究部に比べ、教材部と学習形態部は実質的な活動内容が少なくなってしまう。次年度の検討課題としたい。

